

こんにちは。文化財課の児玉です。

縄文時代の遺跡から奇妙な形をした自然石がしばしば出土することがあります。かつては、加工痕や使用痕がないことから、遺物とは見なされませんでした。平成6年(1994)に私は、津軽半島北端部に所在する外ヶ浜町宇鉄遺跡(当時三厩村)の発掘調査の際、特に加工の痕跡も認められない、奇妙な形の自然石ばかりを一ヶ所に集めた遺構を見つけました。出土した自然石は、冠形や足形といった、くびれのある石が目立ち、ほかにも孔を有する石、凹凸が激しい石、水晶など多様な自然石が集められていました。この調査をきっかけに、縄文人は「奇妙な形をした自然石」や「綺麗な鉱物」などを収集していたのではないかと考えるようになりました。

くびれのある自然石には、冠形・足形・瓢箪形など様々あり、青森市の小牧野遺跡では縄文後期の包含層から靴形が1点、盛土遺構から冠形が1点出土しています。また、同じく青森市の稲山遺跡でも縄文後期の包含層から瓢箪形と冠形が各1点出土しています。これらの資料の一部は、縄文の学び舎・小牧野館に展示しています。

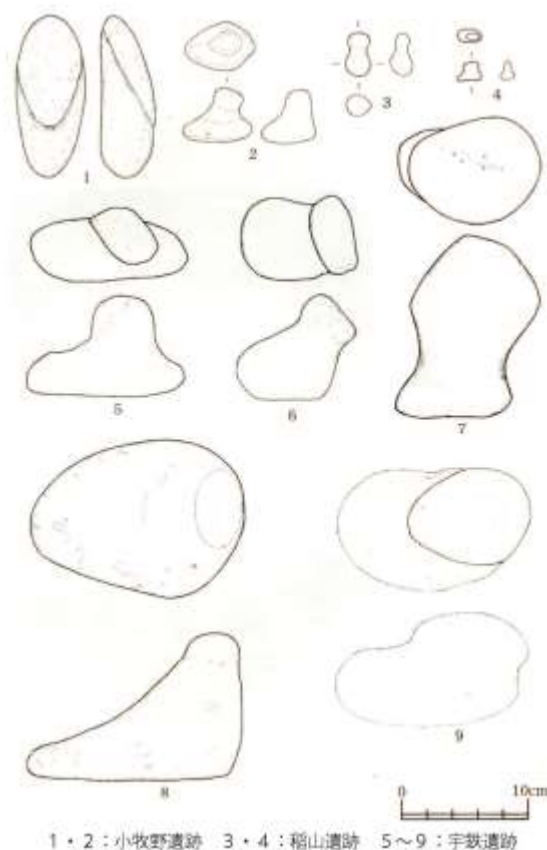
また水晶は、その加工品が三内丸山遺跡などで出土していますが、加工をしていない結晶自体が出土している遺跡もあります。稲山遺跡では、縄文後期の包含層を主体に200点をこえる水晶が出土し、このほかにも縄文後期の小牧野遺跡や縄文晩期の青森市長森遺跡でも水晶が1点ずつ見つかっています。

以上のような自然石のほかに、縄文人は化石も収集しています。岩手県の和井内遺跡では縄文晩期に収集されたと考えられる1500万年前の哺乳動物「パレオパラドキシア」の臼歯の化石が出土しています。八戸市の風張遺跡では、縄文後期の竪穴住居跡の床面より、大型サメの歯の化石が出土しています。

縄文人が、どのような目的で自然石を収集したのかは想像の域を出ませんが、民俗事例等から、手足などの体の一部に見立てて、呪術具や願掛けの道具として用いられたと考えられますが、中には縄文人の好奇心により収集されたものもあったと思います。

これらの遺物は、縄文後期から晩期にかけて収集されることが多く、ちょうどこの時期には、祭祀・儀礼で使用されるような道具が多様多様を極める頃で、そうした時期に自然石の収集行為が多くみられます。

こうした石は、自然の造り出す形の不思議さについて見ても飽きないものですが、現代人と通ずるような縄文人の好奇心を感じとることができるのではないのでしょうか。



青森県内から出土した「くびれのある自然石」